



別寒辺牛

2017年3月発行

NO.33

野生生物の生存率 ～オオハクチョウを例にして～

多産な生き物は主に魚類や昆虫に多いのですが、特にマンボウの卵3億個は有名です。鳥類では、小鳥のスズメは1回に5～6個の卵を産み、1シーズンに2回、暖かい地方だと3回産卵を繰り返します。通称二番子、三番子などと呼ばれています。



厚岸町にもやって来る大型鳥類の場合、オオワシ、オジロワシで2～3個、タンチョウで平均1.8個と、大型になるほど数が少なくなっています。これは哺乳類でもだいたい同じです。

ところがオオハクチョウは、他の大型鳥類と同じくらいの2mを越す翼を持ち、体重は国内最大級の野鳥であるにもかかわらず、1回の産卵数が5～6個と多いのです。1シーズンに複数回産むわけではありませんが、スズメ並みなのです。

ここで計算。大型ワシやタンチョウ、オオハクチョウの寿命は約20年程度といわれており、また産卵できるようになるまで5年前後はかかります。仮にオオハクチョウが平均寿命20年、5歳から15年間5個の卵を産卵し続けると仮定すると、

15年×5個=75個

75個の卵が生まれることになります。全てヒナがかえったとして、2羽が75羽に... 実に37.5倍。

仮に親が寿命を全うするとすれば、2羽($2 \div 75 \times 100 = \text{約} 2.7\%$)が生き残れば全体の数は維持できるのですが、75羽が全部生き残れば...全国オオハクチョウだらけになってしまいますね!

実際は、卵がふ化しなかったり、ふ化直後に天敵に食べられたり、渡りの途中で事故にあったりと、色々な要因で数が減ってきます。また、無事に大人になっても病気や不慮の事故などでやはりその数は減っていき、最終的に現在の数をおおよそ維持しているといった状態なのです。中

でもまだ体力のない幼鳥の生存率は飛び抜けて低いのです。

大ざっぱに1つがいから5羽生き残るとして、 $5 \div 75 \times 100 = \text{約} 6.7\%$ 。約2.7%よりはだいぶ増えましたが、 $100 - 6.7 = \text{約} 93.3\%$ が死亡しているということになります。これをマンボウで当てはめるとふ化後の生存率は限りなくゼロになってしまうことがよくわかりますね。

今季の冬は非常に寒かったですね!

11月からマイナス10度を下回り、年を明けたらマイナス20℃前後が頻発。近年では平成12年度(平成12年から13年の冬)に似たような大寒波がやって来て、厚岸湖で越冬していた約1,000羽のオオハクチョウの10～20%(100～200羽)は寒さが原因で死亡しました。ただ、上記の生存率を考えるとオオハクチョウの種が絶滅するような大事件ではない、というわけです。

今季は、この通常の衰弱死に加えて、高病原性鳥インフルエンザの発生が6年ぶりに確認されました。これも過去から繰り返している自然現象です。

むしろこれだけ強い寒波の場合、他の肉食動物も同様に厳しい冬となり、オオワシやオジロワシにとっては、オオハクチョウの死体は重要な餌となるわけです。これは“生き物のつながり”のほんの一つの断面ですが、命がこうやってつながっているということがよくわかる一例です。でも不思議なのは、オオワシ、オジロワシはなぜか鳥インフルエンザで死亡していないのです。

太古から
そういう食
べ物を食べ
てきたせい
なのでしょう
か???



平成28年度やちっこクラブ活動報告

平成21年度から、町内の子供たちを対象とする自然体験クラブとしてスタートした「やちっこクラブ」です。今年度は19人のキッズレンジャーが、サポーター9人、協力員3人の協力の元に、月に1回のペースで、厚岸の自然について楽しみながら学習してきました。今年度も、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所の協力を得て、厚岸の環境とは切っても切れない「海」の体験学習を行ったり、海事記念館との共催による事業など、一部悪天候による中止もありましたが、一年を通じ活動を行いました。今年度の活動内容は以下のとおりです。

- 5月 ● やちっこクラブ開級式
- 6月 ● 花の観察会（あやめヶ原）
別寒辺牛川のカヌー(海事記念館共催)
- 7月 ● 別寒辺牛川のカヌー下り
- 9月 ● 別寒辺牛川のカヌー下り
- 10月 ● 厚岸臨海実験所の実習船「うみあいさ」に乗船し、アイニンカップにある世界有数のオオアマモ場の生物を採集、観察
● 星空観察会（海事記念館共催）
- 12月 ● 渡り真っ最中のオオハクチョウ観察
- 1月 ● 厚岸湖の水鳥調査
- 2月 ● 全道一斉海ワシ類調査

平成29年度も、子供たちが厚岸町の自然を楽しめるプログラムを企画中です。会員の募集については、4月に各小中学校を通じて、小学校4年生から中学校3年生までを対象に募集案内しますが、ご興味のある方は水鳥観察館までお問い合わせください。



アイニンカップでアマモ場の生き物観察



別寒辺牛川で川下り

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより

あっけし みずどり かんさつ かん
厚岸水鳥観察館

☎088-1140
北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ6番地
TEL&FAX (0153) 52-5988
E-mail: bekan@tiara.ocn.ne.jp
URL: <http://www.akkeshi-bekanbeushi.com/>